

補助事業計画書・成果報告書－1

計画 平成27年 4月 1日 策定

平成 年 月 日 修正

成果報告 令和元年 5月31日 報告

担当課

危機管理室

補助金等の名称	佐倉市災害見舞金
---------	----------

予算科目	一般会計	款	2	項	1	目	12
予算事業名	災害救援体制整備事業						
実施計画の位置づけ	災害時の総合的な支援体制を確立いたします。						

補助金分類							
国県補助の状況	国付・県付・国直接・県直接	国県補助なし					千円
交付先	市民で、災害により現に自己の居住している住家に被害を受け、又は市内において発生した災害により死亡もしくは傷害を受けた者						
支出根拠規定	佐倉市災害対策条例、佐倉市災害見舞金支給規則						

補助の目的	暴風雨、豪雪、洪水、土砂流、山崩れ、がけ崩れ、地すべり、地震、竜巻及び落雷による災害の被害を受けた方の生活の立て直しを補助する。
補助の効果	暴風雨、豪雪、洪水、土砂流、山崩れ、がけ崩れ、地すべり、地震、竜巻及び落雷による災害の被害を受けた方に対し、災害見舞金を支給することにより、被災世帯の経済的負担の軽減に資する。
補助対象事業の具体的内容	暴風雨、豪雪、洪水、土砂流、山崩れ、がけ崩れ、地すべり、地震、竜巻及び落雷による災害の被害を受けた方に対し、被害の程度に応じて災害見舞金を支給する。
対象経費及び補助率	全壊 200,000円／世帯、半壊 80,000円／世帯、床上浸水80,000円／世帯、死亡 200,000円／人、傷害(1月以上)50,000円／人
補助金額の根拠	現行要綱の補助金額を参照とする。 (県内各市に対し災害見舞金等の調査(平成8年9月26日実施)を行い、近隣市の状況を考察し補助額を算出。)
備考	
1/2を超えて補助、設立5年を超えて運営費補助する理由	
その他	
補助期間	平成27年 4月 1日～令和2年 3月31日

補助事業計画書・成果報告書－2

		担当課	危機管理室	
補助金等の名称		佐倉市災害見舞金		
平成27年度	計画額 〔千円〕	各年度目標値	決算額 〔千円〕	各年度成果値
	0	災害が発生した場合の事業であるため、目標値を0とする。	1,120	・東日本大震災 半壊 14件×80千円
	成果達成状況の分析と今後の方策			
	災害による被害の状況により遅延なく見舞金支給を行った。今後も被害の状況に応じ、被災者への見舞金支給を行う必要がある。			
平成28年度	計画額 〔千円〕	各年度目標値	決算額 〔千円〕	各年度成果値
	0	災害が発生した場合の事業であるため、目標値を0とする。	720	・東日本大震災 半壊 1件×80千円 ・平成28年8月2日大雨 床上浸水 1件×80千円 ・平成28年8月24日大雨 床上浸水 7件×80千円
	成果達成状況の分析と今後の方策			
	災害による被害の状況により遅延なく見舞金支給を行った。今後も被害の状況に応じ、被災者への見舞金支給を行う必要がある。			
平成29年度	計画額 〔千円〕	各年度目標値	決算額 〔千円〕	各年度成果値
	0	災害が発生した場合の事業であるため、目標値を0とする。	80	・東日本大震災 半壊 1件×80千円
	成果達成状況の分析と今後の方策			
	災害による被害の状況により遅延なく見舞金支給を行った。今後も被害の状況に応じ、被災者への見舞金支給を行う必要がある。			
平成30年度	計画額 〔千円〕	各年度目標値	決算額 〔千円〕	各年度成果値
	0	災害が発生した場合の事業であるため、目標値を0とする。	80	・東日本大震災 半壊 1件×80千円
	成果達成状況の分析と今後の方策			
	災害による被害の状況により遅延なく見舞金支給を行った。今後も被害の状況に応じ、被災者への見舞金支給を行う必要がある。			
令和元年度	計画額 〔千円〕	各年度目標値	決算額 〔千円〕	各年度成果値
	0	災害が発生した場合の事業であるため、目標値を0とする。		
	成果達成状況の分析と今後の方策			
計画期間終了後の最終的な目標値		災害が発生した場合の事業であるため、目標値を0とする。		
計画期間終了後の最終的な成果値				